

学校の教育目標		未来志向で考え行動・挑戦する児童の育成				経営理念		チーム風早小で進める学校運営 ① チャレンジ……………目標に向かって挑戦する児童・教職員 ② チェンジ……………アンテナを張り、時代を読み、変革する教職員 ③ コミュニケーション……………学校・家庭・地域が一体となり前進するコミュニティ・スクール									
評価計画						自己評価				学校関係者評価 ※学校の自己評価に対する評価			改善方策				
中期経営目標		短期経営目標	評価項目・指標	目標値	目標達成のための具体的な方策		達成値 10月 2月		達成度	評価	結果と課題の分析			評価 A B C		コメント	改善方策
確かな学力	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善	【研修テーマ】 児童の自己調整力を高め、主体的に学ぶ児童の育成 ～国語科・算数科における自由進度学習を通して～	・国語科、算数科の学習において、自分で学習方法を選択し、学びを進めている児童80%以上。 ・標準学力調査の平均正答率を各学年が上回る。	80% ★	・外部講師を活用し、校内授業研究年間1人1回以上行う。 ・各担任は年間1単元以上、自由進度学習を取り入れた授業を実施する。 ・各学力検査等の結果から改善計画を各学年で立て、実践する。	91% 60%		87%	2	・各担任が国語科・算数科を中心に自由進度学習を取り入れた授業を実施した。学習計画を自分で立てさせたり、個に応じた場の設定を工夫したりすることで、「自分で学習方法を選択し、学びを進めている」と感じている児童が、91%となった。今後は振り返りを充実させることで、自分を客観視したり、学びを次に生かそうとする児童の姿を目指す。 ・標準学力調査の結果、5学年中、3学年が全国平均を上回った。各学年で改善計画を作成し、実施していく。また、単元末テストの分析を細かく行い、スキルアップタイムの内容を決めていく。							
		ICTの効果的な活用	ICTを効果的に活用した授業を週1回以上行う。(教職員の肯定的評価85%以上)	85%	・ICTを活用した校内研修を年10回以上行う。 ・児童に対して、市主催のICTコンペ、タイピング大会への参加を促す。 ・効果的な活用事例を蓄積し、共有化する。	100%		110%	4	「ICTを活用した校内研修」は計画的に進められている。「ICTを効果的に活用した授業を週1回以上行う」の達成率は100%であり、ICT活用(タブレット活用も含めて)の授業は日常化されている。初めて「ICTコンペ(プログラミング・デジタルアート部門)」に参加し、優秀賞を獲得した。タイピング大会への登録数も増えている。							
豊かな心	向上的変容をめざす集団づくり	風早プライドの徹底(挨拶・返事)	自分から進んで気持ちの良いあいさつができる児童の自己評価85%以上	85%	・放送で、各学年による振り返りを行う。 ・学級で月ごとの振り返りを行う。 自己評価 …毎日 →肯定的評価90%以上	94%		110%	4	児童会を中心とした、毎週水曜日のあいさつ運動や毎月取り組む内容が変わる、風早プライドの各学年の発表により、あいさつを進んで行う児童が目標値85%を上回る94%であった。今後も、大人が良いお手本となり、状況に応じた挨拶・返事ができるように指導していくとともに、各クラスに「挨拶・返事の成長の段階」を掲示し、日ごろから取り組むことができるように継続して指導していく。							
		読書習慣の定着	本を読むことが好きな児童の自己評価80%以上 年間目標読書量(60冊以上)を達成した児童の割合80%以上	80% 80%	・毎週月曜日と木曜日に、15分間の朝読書を行う。 ・読んだ本を記録する。(読書貯金) ・図書祭で、読書量の多い児童を表彰する。 ・図書委員による、スタンプラリーの実施。	68% 64%		82%	2	半年で50冊以上読んでいる児童がいる一方で、1・2冊しか読めていない児童もあり、読書量の多い児童と少ない児童との差が大きい。また、学年によって本を読むことが好きな児童の割合にばらつきがある。今後は、図書委員とともに、より多くの児童が本に興味をもてるような取り組みを計画する。また、学級でも本に興味をもてるような取り組みを促す。							
健康でたくましい体	成長を実感できる体力・健康づくり	運動に係る自己記録の更新	「挑戦カード」と「50m走」の計測記録で、自己記録更新できた児童の割合80%以上	80%	・「50m走」の記録測定を年間2回行う。 ・授業内の児童の運動量の増加を目指すための場づくりや活動内容の工夫改善。 ・準備運動に、「縄とび」を加え、年間を通して地面をける力を鍛え、すばやく動作を繰り返す能力を高めていく。 ・ロング屋休憩を活用したプレイタイムの実施 ・一年間を通して使用する挑戦カード(なわとびカード・水泳カードを含む。)を作成する。	70%		87%	2	体育の授業内で、ドリル形式の運動や最初に縄跳び運動を取り入れることで、児童の運動量の確保や場づくりの工夫をすることができた。また、なわとびカードや水泳カードを作成することで、それぞれ目標を立ててなわとびや水泳に臨むことができた。今後はロング屋休憩を活用したプレイタイムを実施、運動の機会を確保していく。							
		基本的な生活習慣の向上	「自分が決めた就寝・起床時刻を守る」児童の割合80%以上 「自分が決めたゲーム遊びの時間、メディア視聴の時間を守る」児童の割合80%以上	80% 80%	・生活習慣アンケートを前後期1回ずつ実施する。 ・生活習慣に関する保健指導を児童へ実施する。 ・保健だよりや懇談会等を通して、「睡眠の大切さ」や「メディアとの付き合い方」について保護者に呼びかける。	72% 88%		100%	3	どの学年も「就寝時刻を守る」ことが課題である。家庭や自分で目標時刻を決めているが、自分の生活を振り返ってみると目標時刻を守ることが難しい児童が多いことが分かった。また就寝時刻が遅い児童やメディア接触時間が長い児童へ対して、個別の声掛けや家庭へ対しても懇談等を通して連携を行っていく。							
開かれた学校づくりと働き方改革	コミュニティスクールの充実による学校、地域への愛着と誇りの育成	母校・地域に愛着と誇りをもたせる「地域貢献型の生活科・総合的な学習の時間」の推進	地域への愛着度についての児童アンケートの肯定的評価90%以上	90%	・MTの招致を各学年2回以上実施する。 ・地域との連携活動を各学年1回以上実施する。 ・C.Sの校内研修を実施する。 ・C.S連絡会の定例化と、C.S推進員や地域学校協働活動推進員との連携を行う。 ・学校だより、C.Sだよりを月1回発行する。	95%		105%	3	地域への愛着度が目標値を上回ったのは、見守り隊をはじめとする地域ボランティアの存在が影響していることが分かった。また、地域への愛着度と学力の定着度には相関関係があると分かったので、学力の定着も目指していく。 年度当初の計画をもとにCS推進員と連携して、MTの招致をしており、後期も積極的に実施する予定。毎月のC.S連絡会の実施、学校だより、C.Sだよりの発行だけではなく、広島県主催の学びのラボでの発表や県が発行するクリップへの掲載等実践を広く発信することができた。							
	働き方改革と業務改善の推進	教職員が健康で働きがいのある職場づくり	学校は、働きがいがあると感じる教職員の割合90%以上	90%	・平日の最終退校時刻を守れるように声を掛け、水曜日は、原則定時退校とし、超過勤務平均を毎月45時間未満とする。 ・業務改善、業務削減に係る意識調査を年2回実施し、企画委員会等で協議し、実施できることを全職員の共通認識のもとと取り組む。	100%		111%	4	職員に働きがいがあるかを問うアンケートでは、肯定的回答が100%であった。話しやすく風通しの良い職場であったと考えられる。 職員の超過勤務時間の平均は、約35時間(9月末)で県の目標である45時間を下回ったが、業務の偏りが課題である。業務のバランスを考えるとともに、業務の優先順位をつけ、子供と向き合う時間を確保したい。また、アンケートにあった業務改善に取り組むことで、さらに働きがいがありワークライフバランスの取れる職場にしてい。							

評価★ 4…目標を上回って達成(5／6学級以上) 3…目標どおりに達成(4／6学級)
2…目標をやや下回って達成(3／6学級) 1…目標をかなり下回ってに達成(2／6学級以下)

評価 4…目標を上回って達成(110％～) 3…目標どおりに達成(90％～110％)
2…目標をやや下回って達成(70～90％) 1…目標をかなり下回って達成(～70％)